

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム富南の郷里
(ユニット名)	2階
所在地 (県・市町村名)	静岡県三島市安久660番地の10
記入者名 (管理者)	佐藤 三千代
記入日	平成21年 3月 5日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	安心、安全でバリアフリーの町並みの中で地域の方と共にゆったりとゆっくと第三の人生を共に歩む。	○	地域主催の行事等への参加、地域からの誘いの参加 これからは地域への社会貢献(ごみ拾い等)。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	理念に向けてゆったりとした空間、ゆっくりとした時間を公平・平等に提供できるように日々取り組んでいます。	○	利用者に対し日々落ち着いた介護をしていきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	町内会の催しなどの呼びかけに対し参加できる利用者と共に参加している。		町内会回覧板などコピーして地域の様子なども伝達して行きたい
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	散歩時などに近所の人達と挨拶を交わしたり、会話を交わしたりしている。近隣の親子が立ち寄って下さる。ご近所に納涼祭等の案内状の配布などをし広く交流出来るように努めている。		特にグループホームでの行事ごとは、案内状などの配布をし地域との交流を深めていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	頻繁では無いが老人会の方に掃除に着手頂き交流を図っている。地域主催のお花畑コンサートの見学、参加。	○	近所の公民館で老人会の方とレクリエーションをしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の老人会の方によく言われる事ですが、老人会での合言葉は、「富南の郷里には入居しないよう、御世話できるようにする」と言われていることを職員に話している。		地域の老人会の方に職員から「認知症でも共にここで一緒に暮らせていける」と言えるように、利用者とともに地域活動・行動等に積極的に参加したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員に意見を記入してもらっている。	○	積極的に評価を受け、常に改善を心掛けていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームでの活動の報告をし、参加者より意見をいただき、取り組めることを実行している。	○	介護保険制度の説明をしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	当ホームの家族会は年一回一月の誕生日会に集まっていたいておりますが、その中には三島市の相談員が中立な立場として加わり話し合いをされ、その後に経営者及び職員が加わって話し合いをしている。	○	五年目に入った今年も相談員さんに中立な立場として話し合いに加わっていただき、サービスの質の向上に努めていきたいと思っております。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	当ホームに関わりをもたれている方を、現在職員が支援をしている。		成年後見制度についての勉強会を職員に開いていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	開所より、高齢者虐待はあってはならないことは当然として利用者にたいして拘束をしないよう努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入退所時の利用者家族に対して再度の説明。ターミナルに向かったの説明をした。</p>	<p>○</p> <p>入所にあたり重要事項の説明はしているが、入居が長期にわたると退去時の契約事があやふやとの指摘を受け、重要事項説明書と契約書を、四月より改訂をする。年一回の家族会にて説明をする。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>月一回のケア会議に参加していただけるように前月に家族宛の手紙にて発信している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>緊急時以外、利用者の暮らしぶりや健康状態に対しては、月一回家族来訪時に報告させていただいている。又、意見、不満、苦情は当ホーム以外の三島市相談員をはじめ静岡国保連の相談窓口があることの説明を重ね重ねしている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>コミュニケーションがとれる場合には御家族とも話が出来る。苦情、不満も受け止め会議でも話し合っている。</p>	<p>○</p> <p>来所された時になるべく様子の報告、また記録の公開をして行きたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>常に話し合いの機会を設けている。シフトにより会議を以前より増している。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>管理者が出来る限り利用者家族が事前に分かる時の来所に合わせる出勤、職員のシフトに関して職員が事前の休み届については公休日としてあるシフトづくりをしているため勤務のムラができないようにしている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>出来ている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	シフト上で可能な限り研修を受ける機会を確保している。研修報告書、情報の共有、研修生の受け入れ実施。	○ 本年も計画を立てて認知症介護の研修を中心に職員のスキルアップとモラル向上のための研修を受けられるようにすることを目標としていく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1度の三島市グループホーム部会に参加し意見交換、交流を図っている。	○ 本年は三島市グループホーム部会の中心となってネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしていく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	シフト上で職員からの公休希望が良く反映される。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	出来ている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	出来ている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	出来ている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来ている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にあたっての見学、訪問、相談、カンファレンスを家族、本人を交え実施している。		その人のフェイスシート・モニタリング等を参考にしながら、出来ることが何かの発見を全介護職員でケアプランの作成ができて、これからの生活に互いに役だてるようなサービスを開始したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者と喜怒哀楽を共有している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来所された時になるべく御家族とコミュニケーションを取り意見や要望を取り入れる姿勢をとっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	毎月家族へ手紙を発信し、日々の生活の様子を知らせている。		家族が気軽にホームに遊びに来て話ができるよう支援して行きたい。(ケアプランにも取り入れていきたい。)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの床屋、以前住んでいた近くのスーパーや店に出かけるなどの支援をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	バリアフリーの畳コーナーにソファを置き常に2～3人で腰掛けて話ができる。団欒の時間になるべく全員で体操やレクリエーションを行える様に努力をしている。		出来る限り孤立しないように利用者同士で共通の話題や趣味などで共に関わりあえるよう席などには特に介護員は神経を注いでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	全く出来ていないことはない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りの意見や要望は聞き入れプラン等に反映していく様にして行く努力はしている。困難な場合には御家族にも希望を聞いている。	○	何が出来るかを職員全体で、もっと考えられる様にして行きたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴や馴染みの暮らし方生活環境を日々の会話生活から引き出し検討している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の心身状態を見て支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がよりよく暮らすため、ケア会議を通じ作成している。毎月一回実行。	○	介護計画に基づいたケアのありかたを職員一同で共有していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行なうと共に見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、家族、介護職員、看護師、本人も交えて話し合いを持ち現状に即した新たな計画を作成している。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のケアカンファレンスにて、職員全員にて話し合い実践している。	○	記録とプランが連動出来る様な体制を目指している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当社他事業所の利用者や家族会や地域の方々と共に交流の機会を作り、当ホーム内での敷地の活用をして多機能に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	介護相談員、ボランティア、避難訓練時の消防の協力、等を実践している。	○	もっとボランティアや近所の老人会等とコミュニケーションを図っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと、二ヵ月に一回おこなわれている地域推進会議で協働している。		地域推進会議だけの協働ではなく日頃より綿密に地域包括支援センターと取り組んでいきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び御家族の希望を優先し適切な医療を受け入れるよう助言支援している。		往診を利用(24時間電話対応可)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	家族に情報提供しながらの支援をしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携加算をいただき、非常勤ではあるが看護師を配備しているため、日常の健康管理、服薬管理、医療の相談を綿密に行い、医療活用の支援ができています。		家族の理解と協力によって今後も医療連携加算をいただき、非常勤ではあるが看護師を配備し日常の健康管理や医療活用の支援を続けていく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	出来ている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在ターミナルにあたり取り組中である。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルに向けて、利用者の家族と主治医と職員と話し合い進行中。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	当ホームから別の施設に移る場合、情報提供をしている。		本人が別の施設等に移り住む時には当ホームにおいてのこれまでのサービスと別の施設等とのサービスの違いがあったときの説明および情報本人にとってどうダメージを受けるかを十分に話し合っていけるようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては、厳しく指導している。	○ さらにその人にとっての誇りやプライバシーを損ねないような言葉掛けなどをして対応していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	なるべく本人の希望に応えられる様に心がけている。希望に応えられない場合にはわかりやすく説明をして、出来る限りの自己決定を促している。	利用者の希望などに添えるように、利用者が納得しながら暮らせるように支援していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向によって支援している。	○ 一人一人のペースをたいせつにできるよう、業務の見直しを検討していきたい。
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	御家族の要望、本人の訴えが困難、身体的に困難な場合には出張美容院を利用し、こだわりのある方には御家族に報告、相談して対応している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の力、要望を聞きながら、利用者と職員と共に食事の準備や片付けをしている。	○ 出来る限り支援していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が好む嗜好品の中で、飴玉だとかの事故につながりそうな食べ物は極力避けている。また、家族等親類などで差し入れ等は窓口で一旦をお預かりをし、介護員が管理しながら利用者に支援している。おやつに関しては購入時一緒に買い物に行き、好みの物を選んでもらう。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	毎日の排泄状況を把握している。定期的にトイレに誘導しトイレでの排泄を促すように支援している。又対応等については、職員全員で会議にて、話し合っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の訴えが困難な方や状況もあり、全員が入浴できるように話し合い、入浴拒否の場合をふくめ日を入れ替えるなど、対応をしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間は出来るだけ眠っていただけるようメリハリのある生活を送って頂ける様な支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レベルに合わせて一人一人の出来ることへの再確認をしながら、その方に何をしてほしいではなく、その方が何をしたいのか発見に注いでいる。(以前はできたが、できなくなった方もいるため)	○	車でのドライブ、季節の行事等の計画を検討している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来ない、トラブル防止の為、基本的に金銭は持っていないようにしている。買い物へ同行した際には希望を聞き、後日請求として購入もして頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の体調に配慮しながら天気の良い日は散歩には出る様にしている。	○	職員全員の話し合いにより夏時間、冬時間の設定をしながら戸外に出かけられるように支援している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者と家族が共に出かけられるよう支援している。		すべての家族利用者に対し支援はしているが、出来ない場合の支援も検討していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞い等を行っている。出来る範囲で本人に書いて頂く支援はしている。又電話をかけたいという方には掛けてもらっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	キーパーソンの方に了解を得ている方ならば面会はこちらも希望している。		家族、知人、等が訪問しやすいように心がけていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必要な場合には御家族に必要性の説明と理解、承諾を得ている。		身体は当然として、心身の拘束をしないケアを目指していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけていない。		一部御家族より・・・日中玄関、居室等に鍵がかかかっていない事に対して、「今の世の中、外から誰が入るか分からないのに物騒では？」と言う苦情的な言葉があった。理解は求めている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜1～2時間の安否確認、状態の把握をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	必要な物の中の一部においては当ホームで管理している。		ヒヤリハットを通して職員全員で、考え行なっている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止委員会を設置しており、会議にて検討している。自主的に職員でも勉強会をしている。		事故対策防止委員会が職員にヒヤリハット報告の数を増やすことを通達し、より細かく事故防止のための分析をして行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し、毎月定期的に初期対応の確認をしている。	○	Nsの指示やマニュアル等を元に勉強会も考えて行きたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の訓練を定期的に行なっている。(職員・入居者・消防による全体訓練を年1回防災の日に実施)職員全員の緊急連絡網の作成をし、職員全員に配布し実行している。		ほぼ全職員に緊急時用携帯電話機を与え昼夜を問わず緊急時対応するように指導している。自家発電機を購入しており月一回の点検をおこなっている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	リスクの防止策を考え御家族の希望や要望をカンファレンス会議に参加を願い職員と共に検討する。面会時にもご家族にお話する。		
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の状態観察、申し送り、記録の確認等をしてNsと相談し対応を考えている。		日中のうちにできる限り対処できるように一人一人の体調変化に注意している。介護員の自己判断でなく、介護員、NSとで情報共有をして早めの受診対応を心がけている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認、飲み込み確認を実行している。	○	目的、副作用、既往歴等の把握をして行けるような体制を考えて行きたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	栄養バランス、咀嚼、食事形態、副作用総合的に検討し実行している。	○	Nsの指示やマニュアル等を元に勉強会も考えてより対応の意識が出るようにして行きたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔ケアの言葉掛け介助をおこない、就寝前には入れ歯をあずかり、入れ歯洗浄剤使用等を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来る限りの自力摂取の促しと摂取量を見ての水分摂取の介助、体調の状態での臨機応変を行えている。	○	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	利用者も介護員もインフルエンザ予防接種は義務付けている。トイレ使用后・外出後は言葉掛け、誘導により手洗いの徹底を心掛けている。外から訪れる家族等には玄関内で、手の消毒をお願いしている	○	清潔の保持、感染症予防のために各所において消毒剤を使い分けており、毎日毎朝徹底して掃除をすることから1日が始まっています。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材管理はホーム内の職員が管理をしている。	○	台所の衛生保持をさらに意識させたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	地下植えの植物と四季折々の花をプランタンに植え愉しんでいる。		玄関には日中鍵をかけていないため出入りは自由になっている。一部の家族には物騒だと言われたこともあるが、極力、玄関内で入り口の受付には職員が待機できるようにしている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、ホールには季節感がある掲示物を利用者様と作り貼る、大きく見やすい日付を書いておく等の工夫をしている。	○	生活音を愉しんでいただき、日中の光に対してはカーテン、照明等により調整している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳を設置してある。職員により誘導、言葉掛け、相性を考えた席替えを行っている。		その時々を利用者の体調・相性等を考えながらくつろげる共用空間づくりに配慮して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前生活していた時の家具等、御家族、本人の希望する物を置いてもらっている。		居心地が良くても出来る限り居室にこもらないように配慮して行きたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	エアコン、自動換気扇、日中の換気季節にあわせた、配慮を心掛けている。		午前中清掃時は必ず居室の窓を開けて換気をしている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーはもちろん、あらゆるところに手すりを設け車椅子対応の広いトイレ(一か所)がある。(福祉用具の活用、杖、車椅子等)		バリアフリーで安全ということに安心しないようにしていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の性格や対応の仕方を把握しているが対応に困る場面も多々あるが一人一人に合わせた言葉掛け、工夫、努力はかなりしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭には職員の手造りベンチを置き落ち着いて外気浴等が出来る環境づくりに努力している。外回りは車椅子でも出入りが出来るようにしている。		畑に野菜を植えて、利用者と共に焼き芋等の収穫祭を愉しみたい。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
		<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/> ③たまにある
		<input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)